

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input checked="" type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
語句や漢字、表現技法を適切に用いて、文章の形態を意識しながら伝えたいことを表現できる。	説明的文章を読み、各文の関係を整理して内容を理解することができるようにする。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を使わずに文章を書いたり、誤字や語句の意味を誤って使ったりする生徒が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・指示語の内容把握に課題がある生徒が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の漢字練習の帯活動で漢字の成り立ちなどを解説し、反復練習をする。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・授業内で指示語の内容を確認する学習活動を多く設定する。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに実施。<input checked="" type="checkbox"/>ア <input checked="" type="checkbox"/>イ 	漢字の学習は小テストの平均点が合格点(8点)を超えない時があるので、家庭学習を含めた指導をしていく。また、文法の学習で指示語はよく理解していた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・作文において、日本語として不自然な表現が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・文章の読み取りに課題がある生徒が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに辞書を用いて意味調べをし、調べた語句を使った例文を作る。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・本文に漢字の読みを書きながら音読したり、事前に意味調べしたりする。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに実施。<input checked="" type="checkbox"/>ア <input checked="" type="checkbox"/>イ 	紙の辞書を使って意味調べをすることで語彙を広げられた。また、初発の読み取りの際に、注意点を先に示すことで理解が高まった。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・要約において、筆者の主張だけでなく、自分の考えを入れたり、自分が理解したとおりに書いたりしてしまう生徒が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・文章の内容を要約することに課題がある生徒が見られる。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的な文章の単元において、筆者の主張と、それに対する自分の意見を分けて考えながら、要約と意見文の両方を書かせる。<input checked="" type="checkbox"/>ア ・授業内で文章中のキーワードやキーセンテンスを確認し、自分なりに内容を要約する時間を設ける。<input checked="" type="checkbox"/>イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに実施。<input checked="" type="checkbox"/>ア <input checked="" type="checkbox"/>イ 	筆者の主張に対して、自分の意見を述べたり要約したりする活動を通して作品の理解につながった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1 年: 分からない単語を調べる時に活用する。【重点: 個別】</p> <p>2 年: 分からない単語を調べたり、お互いの評価で活用したりする。【重点: 個別・協働】</p> <p>3 年: 分からない単語を調べたり、お互いの意見の交流で活用したりする。【重点: 個別・協働】</p>	<p>ミニ黒板や授業プリントなどに目標を提示しながら、授業の見通しが立てられるようにする。目標に沿った授業を展開し、授業の振り返りの時間を設ける。(全学年)</p>

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能

イ 思考力、判断力、表現力等

【読み取る能力】社会的事象に関する知識や今までに身に付けた資料活用
の技能を基に問題文やグラフ、表などの資料を読み取る力。

【書く能力】思考・判断を基に、自分の考えを文章にして表現する力。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 問題文やグラフ、表などの読み取りに課題がある。ア 授業中に得た知識を整理し、自分の言葉として文章にして表現することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で問題文やグラフ、表などの資料を読み取る時間を設定し、読み取る際のポイントや感覚を養っていく。 各授業のまとめで本時の授業の課題を自分の言葉で説明し、共有する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業 毎回の授業 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業で資料を読み取る時間を設定することで読み取りの感覚を養うことができた。 各授業で本時の課題を自分の言葉で説明することで、表現力を身に付けさせることができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を基にして考えたり表現したりすることに課題がある。ア 自分の考えを短文で表現することはできるが、レポートなど長文になると、わかりやすく表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業での資料の読み取り、自分の言葉で本時の内容を説明する活動を継続して行い、単元末で単元の学習をレポートにして、自分の言葉でまとめる時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業、単元末 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業での資料の読み取り、自分の言葉で本時の内容を説明する活動を継続して行うことで、資料を読み取る技能や表現力を身に付けさせることができた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 長文を読み取ったり、複雑なグラフ、表などを読み取ったりすることに課題がある。ア 自分の考えを言葉で表現したり、議論したりすることに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業から、グラフや図表の読み取りの機会をつくり、苦手意識を無くしていく。 知識の習得にとどまらず、自分の考えを表現する時間を単元の後半に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎単元 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りの機会を多くつくったり、考えを表現したりする時間を多く設定することで、資料を読み取る技能や表現力を身に付けさせることができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1 年 タブレット端末を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合う。
【重点:個別】
- 2 年 自分の意見や調べたことについてロイロノートを通して共有する。
【重点:協働】
- 3 年 調べたことや考えたことを基に、タブレット端末を活用して、プレゼンテーションや説明を行う。【重点:個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1 年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りを実施する。
- 2 年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りを実施し、これまでの学習との関連を考える。
- 3 年 各授業の導入で本時の流れと課題の確認及び振り返りの実施し、毎単元のまとめとして振り返りレポート作成の時間を設定する。

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
各単元についての基礎的な概念や原理、公式を理解するとともに、計算やグラフ、図形の読み取りをする技能を身に付けること。	数量やグラフ、図形などの性質を見いだし、数学的に表現する力を身に付けること。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	①基本的な計算(正負の数・文字と式・一次方程式)の正答率に、個人差が見られる。また、計算速度に個人差が見られる。なかには、途中式を正しくつくることのできない生徒もみられる。ア ②様々な解き方や考え方のある問題では、文章から式をつくるのが苦手な生徒が見られる。イ	①基礎クラスを中心に、前時の復習を行うことや、授業終了時に復習問題に取り組み、計算練習時に丁寧に途中式や考え方を書くように指導する。 ②線分図や表を利用して粘り強く式を作ることを考えていく。また、スモールステップのヒントを手がかりに考える。	①授業ごと ②文章問題や応用問題(思考・判断・表現に関する問題)を扱うとき	①毎時間、前時の復習を扱うことで、基礎的な計算問題等の習得を図ることができた。 ②各単元に2～3回程度、話し合い活動や教員からのヒントを出しながら、取り組むことができた。
第2学年	①複数の解き方がある場合に適切な方法で計算することができない様子が見られる。ア ②グラフや図形における数学的な性質や特徴について思考することや、数学的な課題に対して数学的に表現することが難しい様子が見られる。イ	①少人数授業の特色を生かし、計算演習時の机間指導の際に、手厚く個別指導を行い、計算方法の確実な定着を図っていく。 ②タブレット端末を活用して視覚的に捉えることや、グループワークといった協働的な活動を取り入れ、数学的な性質や特徴を見出せるようにしていく。	①授業ごと ②授業で数学的な性質や特徴を見いだす活動を要するとき	①数学を苦手とする生徒を中心に、基礎的・基本的な計算方法の定着を図ることができた。 ②生徒同士で数学的な考え方を深め合うことができ、思考力・判断力・表現力の養成を図ることができた。
第3学年	①基礎・基本の内容に関する個人差が大きい。既習事項を次の内容に活用することができていない生徒も見られる。ア ②課題に対して、自ら思考して解決策を見いだしていくことが難しい様子が見られる。イ	①授業の冒頭に振り返りのプリント演習を行い、既習事項の確実な定着を図る。また、それを活用する際にも振り返りを行い、内容のつながりを理解できるようにする。 ②課題解決型の授業を展開しながら、生徒が課題解決に向かうことができるように、少しずつ助言を与えながら、自力解決を図る。	①授業ごと ②授業ごと	①繰り返し計算練習を行ったことで、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。 ②初見の問題や複雑な問題に対しても、粘り強く思考して自己解決しようとする姿勢が見られるようになった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・数と式: 複数の解き方をグループで検討【重点: 協働】
- ・図形: 図形を描写してシミュレーション【重点: 個別・協働】
- ・関数: グラフソフトでシミュレーション【重点: 個別】
- ・データの活用: アンケート機能を用いて実際にデータを収集、整理【重点: 個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・見通し: ①授業の導入で本時の流れと課題の提示
②章ごとに各章の内容とのつながりを確認
- ・振り返り: ①定期考査ごとに学習内容と学習の様子を振り返る時間をとる
②授業の冒頭に振り返りのプリント演習を行う

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

<input type="checkbox"/> ア 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること	・自然の事物・現象について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見いだして表現すること

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・密度や濃度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。 <input type="checkbox"/> ア ・生物に触れた経験が少ない生徒が多い。 <input type="checkbox"/> ア ・主体的に課題に取り組み、理解度も高いが、論理的に表現することに課題が見られる。 <input type="checkbox"/> イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考え、計算練習の機会を設定する。 ・校地内での生物の野外観察を実施する。 ・グループ討議で発表し合い、他の考えを聞き自分の考えと比較・修正する場を設定する。	・5月, 7月 ・4月 ・毎月	水溶液の濃度に100%はないことを7割の生徒が理解している一方で、正しく説明できない生徒も4割程度みられるので丁寧な指導が必要である。
第2学年	・圧力や湿度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。 <input type="checkbox"/> ア ・主体的に課題に取り組み、理解度も高いが、論理的に表現することに課題が見られる。 <input type="checkbox"/> イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考え、計算練習の機会を設定する。 ・グループ討議で発表し合い、他の考えを聞き自分の考えと比較・修正する場を設定する。	・7月, 9月 ・单元ごと	湿度 100%があると考えた生徒は半数を超えたが、理由まで正しく理解している割合はその 3 割ほどであり、さらなる改善が必要である。
第3学年	・速さや加速度などの割合の考え方や基礎的な計算に課題がある生徒が多い。 <input type="checkbox"/> ア ・探究した結果を分析・解釈することや、論理的に表現することに課題が見られる。 <input type="checkbox"/> イ	・割合の考え方について、身近な具体例を考え、計算練習の機会を設定する。 ・観察・実験結果をどのように分析・解釈したかを発表し合い、自分と比較する場を設定する。	・9月以降 ・单元ごと	照明器具のエネルギー変換効率をもとに、エネルギーの有効利用について説明できる生徒が増加した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 生物の観察において、記録や種の同定(スケッチ, 図鑑等)
【重点:個別・協働】
- 2年 気象衛星による雲の画像等の活用(地球規模の大気の流れ)
【重点:個別】
- 3年 天文シミュレーションソフトを活用した天体の運動の理解
【重点:個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1年 毎時間のねらいを板書し、小テスト等で振り返りを実施する。観察・実験方法の検討、結果の予想を実施する。
- 2年 毎時間のねらいを板書し、小テスト等で振り返りを実施する。観察・実験方法の検討、結果の予想を実施する。
- 3年 毎時間のねらいを板書し、小テスト等で振り返りを実施する。観察・実験方法の検討、結果の予想を実施する。

音楽科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
<input checked="" type="checkbox"/> 知識及び技能	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力、判断力、表現力等
多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な知識と表現の技能を伸ばす。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、創意工夫して表現する能力を高める。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、女声男声での音域で音程が安定しつつあるが、他パートとのハーモニーを作ることがまだできていない。<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素や構造と曲想を関わらせて表現する力が不十分である。<input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返しの発声練習で音程の安定を目指し、仲間と一緒に歌うことで感じられる響きの心地よさを体験する機会を多くもつ。 実技と楽典を結び付け、具体的な表現方法を器楽や歌唱で体験させる。 	・継続的に実施	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、各音域で音程が安定し、混声三部合唱のハーモニーを作ることができた。 実技と楽典を結び付けることで具体的な表現方法が習得できた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、発声練習で響きのある歌声も増えたが、人数差があり混声合唱の豊かなハーモニーを作ることが難しい。<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> パートのまとまりや複雑な拍子、リズム等の理解と捉える感覚ができていない。<input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 部分練習でパート同士の響き合いを感じさせることで混声合唱の響きの心地よさを体験させ、全曲を通して表現できるように促す。 多様な要素や構造をもつ音楽を歌唱や器楽等で体験させ、感覚的に音楽を捉え表現する力を伸ばす。 	・継続的に実施	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、パート同士の響きを積み上げ表現する力が付きつつある。 多様な要素や構造の音楽の体験を重ね、感覚的に音楽を捉え表現する力が伸びてきた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、発声練習の積み重ねで音量が豊かになり音程が合ったハーモニーで楽しそうに歌っているが、実技と理論を結び付けての表現の工夫ができていない。<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏発表の機会を作り、自らの課題の提示修正や歌詞の内容と楽譜に表記されていることの関係性を捉え、どのように表現するかを考えさせて実演することによって表現法の幅を広げさせる。 	・継続的に実施	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、歌詞の内容と楽譜表記から表現方法の工夫を積み重ね、豊かな表現で楽曲を仕上げ、発表することができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<ul style="list-style-type: none"> 歌唱練習、器楽練習において、演奏を撮ることで客観的に自分を振り返り、表現の工夫に役立てさせる。【重点:個別・協働】 鑑賞活動で作曲者の調べ学習をまとめさせる。【重点:個別】 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱指導において、活動前にパートの課題を話し合い、改善への意識をもたせ、パート練習後の合わせ練習で成果を感じられるようにする。 合唱指導や器楽指導において、部分部分でのハーモニーの響きを作り、心地よい響きができたときの喜びを体感できるようにする。

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象をとらえる造形的な視点を理解し、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表現する。	自然の造形や美術作品などの造形的な良さ、表現の意図と工夫、機能と美しさの調和、美術の働きなどについて総合的に考え、主題を生み出し構想を練り美術文化に対する見方・感じ方を深める。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい気持ちで新しい表現に取り組もうとする姿勢が見られ集中している。彫塑では造形的な視点を吸収して表現していた。ア ・鑑賞の授業への関心は高く、自分の作品の主題設定、構想を立てることに生かしたい。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の制作の良い点を理解し、基本的な技能を身に付けて完成を目指す姿勢を作る。 ・作家の作品、生徒の作品についてのワークシートの記述を大切に構想に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成に至る時期 	毎時間の振り返りに対して適切な助言を記し、授業中と放課後の個別指導を通して作品の完成により成果を味わうことができた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工では新しい素材に意欲を沸かせていた。平面と立体で表現力に大きな違いがある。ア ・イメージから自分の主題を生み出す段階に時間がかかる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸で味わった楽しさを平面作品につなげられるように、自己の表現の良さを理解し、安心して制作を進められる制作手順を示す。 ・自己の表現についての記述や鑑賞における記述を元に、主題についての理解を深めさせる。また、適切な参考作品・資料を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成に至る時期 	毎時間の振り返りに対して適切な助言を記し、段階を追って技法を紹介し、各自のイメージを形にするまでの工程を考えやすいように授業を進めた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として1・2年までの積み重ねの上に、より技術を高めて集中して取り組む姿勢があり、自分の表現方法を追求している。ア ・イメージから自分の主題を生み出し形にするのが難しく、構想の段階に時間がかかる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品から素材や技法のもつ特性や、表現の深まりの実例を示すことで、創造的な技能の育成を図る。制作途中で生徒作品の鑑賞、相互鑑賞を取り入れる。 ・発想から構想の時間を十分に確保して、毎時間の積み重ねによる作品の変化を意識するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施 ・作品完成に至る時期 	毎時間の振り返りに対して適切な助言を記し、毎時間の鑑賞が効果的にそれぞれの作品に生かされていた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1 年「生活をいろいろ文様」文様の調べ学習【重点:個別・協働】
 2 年「金属でつくる」金属を使った身近な例、工芸作品の調べ学習【重点:個別・協働】
 3 年「手づくりに込める思い」堆朱についての調べ学習【重点:個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- 1 年 作ること、描く作業への集中を高める指導
 2 年 作る喜びを自信につなげる課題設定
 3 年 美術文化への理解を深める課題設定

保健体育科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方等を理解するとともに、基本的な技能を身につけることができる。	・自分の課題を発見し、合理的な解決に向けた手だてを考え、解決に向けて自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 各技能の名称の理解や技能ポイントを押さえている生徒が少ない様子が見られる。ア 技能に対して、課題を捉えられる様子が見られるのに対し、解決に向けた取り組み方法を工夫することが難しい様子がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業のホワイトボードの活用に加え、名称や重要なポイントにラインを引くなどして、視覚的に理解しやすいように配慮する。 生徒同士で見合ったり、考えさせたりする時間を増やし、自ら解決に向けた取り組みを考えることができるようにする。 	1年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> 技能ポイントを踏まえた内容をノートに書けるようになった。 課題解決に向けて、小グループで協力して取り組もうとする姿勢が見られるようになった。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 各技能のポイントに対して理解が、技能の向上に結び付いていない様子が見られる。ア 自分や他者の課題に対しての解決策を伝える力が身に付いていない様子が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントの理解に加え、運動の特性の感覚を体験している授業展開を行い、基本的な技能向上につなげる。 グループワークの時間や授業展開を工夫し、見合ったり、教え合ったりする場面を多く設定していく。 	1年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> 技能ポイントを踏まえた内容を大半の生徒が書けるようになった。 課題解決に向けて、解決方法を導き出そうと工夫している様子が多く見られるようになった。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 各技能のポイントを押さえて取り組める生徒が多い。技能の向上に結び付いている生徒と中々結び付かない生徒が見られる。ア 課題を伝え合う様子が見られる。課題に基づく有効な解決策を導き出すのが難しい場面がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で提示された技能ポイントに加え、自分なりの解釈に基づくコツを見付けられるように、反復練習を積み重ねることが出来る授業展開を行う。 課題と解決策の例示を行い、解決策を導き出せるきっかけ作りを行うとともに、グループワークの場面を多く設定し、考えを深められる展開づくりをする。 	1年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述が技能ポイントや課題解決について書けるようになった生徒が増えた。 課題解決に向けて、解決方法を導き出そうと工夫している様子が見られるようになった。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- ・屋内と屋外を問わず、実技の撮影を活用し、自身の技能の見直しに加え、他者と協力して、課題を認識し、解決していくためのきっかけ作りの場面を増やす。
- 【重点:個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・学習カードに単元の流れを明示し、授業ボードを活用して、毎授業の流れを伝える。
- ・学習の振り返りを欠かさず行うために、毎授業内での学習カードの記入と提出の徹底を図る。
- ・グループワークの時間を活用し、課題の発見と解決への取り組みに対し、他者と協力して導き出せるように授業展開を工夫していく。

技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
各分野の学習内容の理解を深めるとともに知識の習得を図り、それに伴う技能を身に付け活用する力を養う。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現できる力を養う。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・日常生活から得られる情報や知識への興味・関心が少なく技能との結び付きが弱い。ア ・すぐに正答を求める傾向が強く、課題発見のための考察が苦手である。イ	・理解を深めるために身近な具体的例を示し、興味・関心を高めた上で知識の習得に結び付ける。また、基礎技能の習得のための実習作業の機会を確保する。 ・ICT機器を活用して問題点を整理し、課題発見へと導く。	年間を通して実施	・身近な事例から知識習得のきっかけを作り、実習に必要な技能習得に結びつけることがた。 ・動画で作業の確認をいつでもできるようにし、実習上の課題発見へと導くことができた。
第2学年	・他教科との関連を理解する力の差が、実験や実習の技能の差としても表れている。ア ・問題の発見から課題を設定できるが、解決に向けた具体的な構想や考察に結び付ける力に生徒間で差が表れている。イ	・他教科の具体例を提示し、実験や実習を通して知識の習得に結び付ける。また、個々の技能を考慮した段階的な目標設定をする。 ・考えた解決策や改善策を、実験や実習での体験を通して考察させる。	年間を通して実施	・主に理科の学習単元と結び付け、実験や実習から知識の習得に結びつけた。 ・実習や実験の結果と既習の知識を結びつけて考えることができた。
第3学年	・ICT機器活用のための基礎知識に偏りがあり、生徒間の技能の差が大きい。ア ・問題発見や課題設定の力はあるが、表現方法の工夫や発信方法の工夫が課題となっている。イ	・教科間で連携している具体的な事例を示すことで理解を深めさせ、知識の習得に結び付ける。また、専門的な技能については、段階的な目標を設定する。 ・班活動と発表の場を確保して経験を積み重ね、表現方法の工夫や発信力の向上に結び付ける。	年間を通して実施	・プログラミングでは段階的な課題で、必要な知識の習得ができた。その上で、個々に専門的な技能の向上に取り組んでいた。 ・デジタル作品の製作を通して、表現方法の多様性を体験できた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 情報収集・整理のツールとしての活用【重点:個別・協働】 2年 文書作成や表計算アプリの技術習得と活用【重点:個別】 3年 プログラムや双方向通信の情報通信端末として活用と情報発信ツールとしての活用【重点:個別・協働】	1年 学習内容を捉えやすくする映像資料を活用すること、既習事項を整理するためのファイリングが活用できるように指導すること。 2年 他教科との関連を明示して学習内容に具体性をもたせることと、実験・実習を通して知識・技能の定着に結び付けること。 3年 単元内容についての身近な生活との関わりを取りあげることと、知識・技能の実生活での活用法が考察できるように指導すること。

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の4技能(聞く、読む、話す、書く)の力を身に付ける。 ・初歩的な英語を読んだり、聞いたりして書き手や話し手の意向を理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な英語を用いて自分の考えを書いたり、話したりして自分の考えを即興的に発信することができる。 ・まとまった英文を読み、内容を理解する。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力の4技能(聞く、読む、話す、書く)の力の書くことと語彙力に課題がある。ア ・初歩的な英語を用いて自分の考えを書いたり、話したりして自分の考えを即興的に発信することができている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業の帯活動で、単元の進出単語についてペアワークを行っている。ア ・新出文法導入時に、毎授業で Dictation test を実施している。ア ・毎授業で単元のピクチャーカードを活用して生徒のインタラクションを行っている。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動として毎授業実施 ・新出文法導入時に実施 ・毎授業で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動の成果として、4月当初より語彙力が増加し、発話活動が活発に行えるようになった。 ・ペアワーク津尾を活用し、日常の初歩的なことについて自分の考えや出来事を即興的に伝える力がついた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な単語や表現を使って話す力は身に付いてきたが、英文を書くことには課題が見られた。ア ・会話活動で、即興的に自分の考えを発信することに抵抗はなくなってきたが、考えを英文にする活動には課題が見られた。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学習した表現を、例文を活用して書く機会を増やす。 ・考えを表現するための語彙力を増やす活動をする。新出表現を使って書く活動の際は、ポイントを押さえて文法の指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元を習うごとに英文や単語を書く機会を作る。 ・帯活動で語彙力を身に付ける活動を日常的に実施し、単元の学習ごとに英文を書く機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語彙を使って、発表活動等で自分の伝えたい内容を表現する力がついた。 ・帯活動で語彙力をつける活動を継続し、既習の単語を使って伝えたいことを書く力がついた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な単語を使っでの英作文は書けるようになってきているが、聞き取り活動に課題が見られた。ア ・まとまった英文の読解活動で、設問に的確に解答できない状況が改善されつつある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で英語の歌や、リスニング、授業内での聞き取り活動を通して、学習機会を増やす。 ・引き続き教科書の本文の読解活動をする際に課題の提示順を工夫して、読解能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で日常的に実施。 ・帯活動で、読み物のトレーニングをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りテストでの得点率が年度当初の7割前後から3学期は9割に向上した。 ・定期考査での読解問題の正答率が1学期末の58%から、2学期末は64%に微増した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

1年	授業のターゲットセンテンスを復習できるように、Google classroom を活用。今後、発表活動で ICT 機器を活用していく。
2年	自分で表現したい内容についてタブレット端末を活用して調べ、やり取りや発表することで、様々な考えや表現を共有する。【重点:個別】
3年	タブレット端末を活用して、プレゼンテーションを行う。作成したスライドを端末で見学し合い、相互に評価させる。【重点:協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年	各授業の導入で本時の流れと目標を提示する。そのあとで、個人で授業の目標を立てさせることで、学びに使う力を育成する。
2年	各授業の導入で本時の流れと目標を提示する。単元ごとにノートの課題(予習、授業、復習)を行うことで学びに向かう力を育成する。
3年	各授業の導入で本時の流れと目標を提示する。そのあとで、個人で授業の目標を立てさせることで、学びに使う力を育成する。